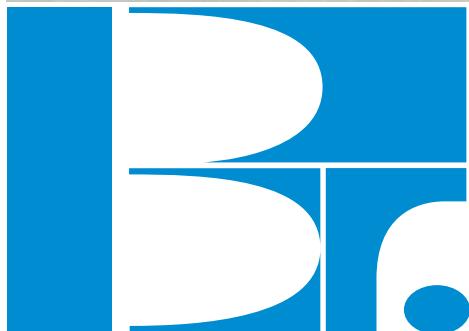


Br. Holdings Report



証券コード:1726

第13期 中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日



株式会社 ビーアールホールディングス

Br.Holdings

「人と人」「技術と技術」の橋渡し



ビーアールホールディングスグループは、
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。
そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、
資本効率のさらなる向上を目指すのが、
ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。
欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する
橋のイメージのデザインで統一されています。
株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。
これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第13期の第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の決算が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社グループの第13期上半期の業績は、受注高が7,471百万円と前年同期(11,577百万円)から35.5%減少し、前年度の好調を維持出来ず通常のレベルへ戻りつつありますが、当同期首手持工事が17,809百万円と前期(13,125百万円)から35.7%増加したことにより、当上半期の売上高は、8,364百万円と対前年同期から12.2%増加しており、その結果四半期純利益は29百万円と対前年同期比で6億円程度改善し、上場後初めて上半期決算において純利益を計上することが出来ました。これは期首手持工事の粗利率が改善し、グループ会社の極東興和(株)で500万時間の災害ゼロを達成するなど、工事進捗状態も順調なためであります。

しかしながら、PC工事の発注実績が当社予想を下回り、受注高が伸び悩んでいることから、平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)は据え置きとさせていただき、今中間配当も前年同期と同額の1株当たり4円とさせていただきます。また、当社株式ですが、順調な業績の結果1株当たり取引価格が上昇したため、当上半期終了後の平成26年10月に普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行わせていただきました。

(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会発表のPC工事発注量は上半期で対前年同期比12%程度減少しておりますが、通期予測では、対前年同期比12%程度増加しており、上半期の発注量に対し、下半期は41%増となっておりますので、当社グループも上半期に続き、下半期は全力で受注に努力してまいります。

当社グループは長期的な人材育成に取り組んでおり、広島県のイノベーション人材育成事業補助金を交付していただき国内で博士課程に、海外で修士課程に職員を派遣しております。また、長年にわたる各大学や研究機関との共同研究により、徐々にではありますが、需要の増加が見込まれるPC床板を含み、補修分野で成果をあげつつあります。今後とも「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、弛まず努力を続けてまいりますので株主様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成26年11月



代表取締役社長

藤田 公康

PROFILE

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

- 昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程卒業
(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))
入社 取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長(現任)

<兼職>

- 昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
- 平成2年 (社)日本青年会議所 会頭

各事業区分の主要な内容

1 建設事業

橋りょう土木工事の設計・施工

2 製品販売事業

コンクリート二次製品の販売

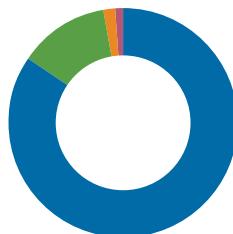
3 情報システム事業

システム開発・販売

4 不動産賃貸事業

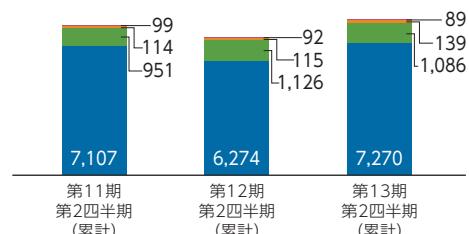
当社ビルのマンション賃貸運営等

● 売上高構成比



建設事業	84.7%	7,270百万円
製品販売事業	12.7%	1,086百万円
情報システム事業	1.6%	139百万円
不動産賃貸事業	1.0%	89百万円

● 売上高推移(百万円)



建設事業

売上高 **72億70百万円** 前年同期比 **15.9%増**

建設事業におきましては、前期の緊急経済対策による大型工事受注の反動があり、当第2四半期連結累計期間の受注高は58億10百万円(前年同期比41.2%減)となりましたが、繰越工事の増加により、売上高は72億70百万円(前年同期比15.9%増)、セグメント利益は4億16百万円(前年同期 セグメント損失1億13百万円)となりました。

セグメント利益は4億16百万円(前年同期 セグメント損失1億13百万円)となりました。

製品販売事業

売上高 **10億86百万円** 前年同期比 **3.6%減**

製品販売事業におきましては、マクラジ及び耐震補強用建築部材等、主要顧客の需要が引き続き堅調に推移しております。当第2四半期連結累計期間の受注高は13億84百万円(前年同期比2.2%減)、売上高は10億86百万円(前年同期比3.6%減)、セグメント利益は23百万円(前年同期比6.4%減)となりました。

情報システム事業

売上高 **1億39百万円** 前年同期比 **20.7%増**

情報システム事業におきましては、緊急経済対策に伴い、IT投資を先送りしてきた企業が投資を再開する動きが見え始めております。当第2四半期連結累計期間の売上高は1億39百万円(前年同期比20.7%増)、セグメント損失は17百万円(前年同期

セグメント損失7百万円)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 **89百万円** 前年同期比 **3.4%減**

不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は89百万円(前年同期比3.4%減)、セグメント利益は52百万円(前年同期比4.1%減)となりました。

Topics ① 那智勝浦Bランプ橋 (極東興和株式会社)

那智勝浦Bランプ橋は、和歌山県新宮市を起点として整備が進められている那智勝浦道路の那智勝浦ICに位置する橋長125mの橋りょうです。

工事区域は、供用中の本線と橋脚真横の民家に近接していることに加えて、2本の県道や災害復旧工事中の河川と交差しており、厳しい施工条件となっていました。

実施工では工事期間全体にわたって騒音・振動・飛散対策を行うとともに、住民や関係者とコミュニケーションを図りながら施工を進めた結果、発注者である近畿地方整備局主催のコンクリート構造物品質コンテストで入賞し、本工事の品質が客観的に認められました。

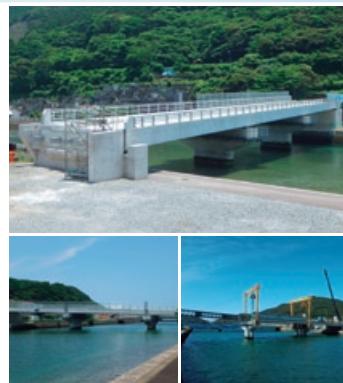


Topics ② 新相河橋 (極東興和株式会社)

新相河橋は、長崎県五島列島の青方港の入り江に架かる新設橋りょうです。青方港は平安時代には遣唐使船の寄港地として栄えた港です。

本工事は3径間連結プレテンホロー桁橋で、当社大分工場で作成した橋桁39本を離島へ運搬して架設するものでした。積み出し港の選定によって陸上及び海上の輸送ルートが大きく変わることから各種組合せを比較検討し、最終的に大分港にて台船に全39本を積み込み、関門海峡、玄界灘を渡って由緒ある青方港に直接入港させる方法をとりました。また、現地には架設用の大型クレーンが存在しないことから、架設桁架設にて架設を行いました。

2日間にわたる海上輸送時の時化が課題でしたが、出港日を調整して対処し無事輸送することが出来ました。また、地元の方を招いて技術者架設見学会や潮干狩り大会等を催し、発注者からは施工管理を含め高い評価をいただきました。



Topics ③ 左坂橋 (東日本コンクリート株式会社)

左坂橋は、東日本大震災の復興道路に位置づけられている宮城県仙台市から岩手県宮古市までをつなぐ三陸自動車道の4車線化に伴う工事で、宮城県松島町に位置します。

本工事は、昼夜交通量の多い主要国道45号線を夜間通行止めにして、ポステンホローセグメント桁10本を架設するため、その交通規制は大きかりで、総延長約3kmの迂回路を設定し、交通誘導員を約30名配置する計画となりました。現地は震災復興需要により誘導員不足が深刻な状況でしたが、施工開始の5ヶ月前から手配を始め人員を確保しました。また、主桁組立・架設方法の検討を重ね、550tクレーンにて準備しておいた主桁10本を夜間1日で架設することができました。

関連工事の影響で約1ヶ月遅れて開始した上部工事でしたが、無事故で短期間に美観良く完了したことで、安全面・工程面・品質面で発注者から高い評価をいただきました。



Topics 4 258号香取高架橋下部工事 (極東興和株式会社)

香取高架橋は、岐阜県西濃地域と三重県北勢地域間の交通確保のために計画された大桑道路の一部として三重県桑名市内に架橋されている橋長57.1mの橋りょうです。大桑道路は、昭和50年より暫定2車線が全線開通しましたが、現在は交通量の増大・車両の大型化に対応するために順次4車線化を進めており、本橋では4車線化事業の一環として橋台2基・橋脚3基の基礎も含めた耐震補強工事が行われました。

本工事では、基礎の増杭補強に際し、桁下作業における厳しい上空制限ならびに硬質な礫層への貫入という地盤制約条件への対応が要求され、施工機械・設備が小規模で厳しい制約条件に対応可能な高耐力マイクロパイル工法が採用されました。本工法は、杭体に高强度鋼管を用い、グラウンドアンカーの削孔技術とグラウトの加圧注入技術の導入によって高耐力・高支持力の杭体構築が可能な小口径場所打ち杭工法です。

本工事は、北側工区(A1、P1、P2)と南側工区(P3、A2)の2工区に分けて発注され、1工区1セット(計2セット)がほぼ同時に進行する状況でしたが、狭隘な施工空間で他工種との並行作業しながらの施工にも関わらず双方とも無事工期内に終了し、北側工区では、国土交通省より関係協力会社事務所長表彰・関係協力技術者表彰をいただきました。



Topics 5 西沢川橋橋りょう耐震補強工事 (極東興和株式会社)

山梨県北杜市小淵沢町内の河川に架けられた西沢川橋は、主要県道茅野北杜芝崎線の一部として昭和57年、橋長58mの2径間単純鋼鈹桁橋として建設されました。本橋は八ヶ岳の南麓に位置し、付近には自然が豊かで避暑地としても有名な清里高原などがあります。

本橋は、事前の点検・調査により橋台、橋脚及び橋りょう床版にアルカリ骨材反応によるひび割れが多数発生していることが確認され補修工事が行われました。

補修工事には、当社の独自工法である「ASRリチウム工法」と「リハビリカプセル工法」が、ひび割れの程度や施工部位に応じて最も経済的になるように組み合わせて採用され、施工されました。



Topics 6 源太橋橋りょう補強工事 (極東興和株式会社)

源太橋(橋長358m)は鳥取市の千代川に架かる鉄筋コンクリート橋で、昭和26年に建設されました。この橋は道路幅が5.5mと狭く通勤渋滞の原因になっていたため、管理者である鳥取県が6.5mに拡幅する工事を発注し、当社を主体とする3社JVが施工しました。

拡幅に伴う上部工の重量増加を抑え橋台・橋脚への負担を軽減するために、桁の一部を軽量の鋼床版桁に取替え、床版と主桁の補強には炭素繊維シート接着工法や外ケーブル工法を採用して重量の増加を抑えました。この事業では、老朽化と道路幅不足に伴い、架け替えせざるをえない状況だった橋りょうの更新を改修で乗り切り総工費を大幅に削減しました。発注当初から注目された本工事は、メジャーな業界紙「日経コンストラクション」(2014.3.24号)にも取り上げられ、その表紙を飾りました。



CSR 東日本大震災復興への取り組み

私たちの想像をはるかに上回り、東日本各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災は、平成23年3月11日の発生から約3年半が経過しました。ビーアールホールディングスグループは、地域の安全・安心に貢献するため、東北地方(仙台市)に本社を置く東日本コンクリート株式会社を中心として、「住宅地のがれき撤去作業」・「国土交通省が設置する、三陸沿岸道路へのコンクリートの安定供給を図る専用プラント設置」、「被災した漁港栈橋の復旧工事」など、被災地のインフラ再構築事業へ主力事業の橋りょう工事の枠組みを超えて様々な取り組みを行ってまいりました。さらに、清掃活動や植樹活動などの地域活動への参加や、グループ企業の極東興和株式会社からは被災直後に国の要望を受け、同社が雇用する即応予備自衛官の派遣などの活動を行っています。

復旧から復興への道程は、未だ先の長い厳しい挑戦となりますが、当社グループが長年培った橋りょう工事のノウハウに加え、様々な形で関わり、今後とも社会に貢献出来るよう努力していく所存です。



仙台市内住宅地におけるがれき撤去作業



宮城県塩釜魚市場漁港栈橋復旧工事



三陸沿岸道路専用公共プラント稼働式



仙台市の広瀬川河川敷清掃



宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭

四半期連結貸借対照表のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期末	前連結会計年度末
	平成26年9月30日現在	平成26年3月31日現在
流動資産	9,796,658	9,518,018
固定資産	4,221,478	4,221,148
有形固定資産	3,483,664	3,515,217
無形固定資産	71,013	68,866
投資その他の資産	666,801	637,064
資産合計	14,018,137	13,739,166
流動負債	10,926,032	10,434,175
固定負債	1,332,482	1,570,980
負債合計	12,258,515	12,005,155
純資産	1,759,622	1,734,011
負債・純資産合計	14,018,137	13,739,166

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point 四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は140億18百万円となり、前連結会計年度末比2億78百万円の増加となりました。その主な要因は、未成工事支出金が9億93百万円増加したことによるものであります。有利子負債は3億42百万円減少し、42億12百万円となりました。純資産は、四半期純利益29百万円の計上等より、前連結会計年度末比25百万円増加の17億59百万円となりました。

四半期連結損益計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日
売上高	8,364,788	7,456,320
売上原価	7,343,913	7,041,898
売上総利益	1,020,874	414,421
販売費及び一般管理費	925,283	876,442
営業利益又は営業損失(△)	95,590	△462,020
経常利益又は経常損失(△)	73,183	△550,116
四半期純利益又は四半期純損失(△)	29,240	△580,638

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point 四半期連結損益計算書

売上高は83億64百万円(前年同期比12.2%増)、営業利益は95百万円(前年同期 営業損失4億62百万円)、経常利益は73百万円(前年同期 経常損失5億50百万円)、四半期純利益は29百万円(前年同期 四半期純損失5億80百万円)となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	701,453	504,911
投資活動によるキャッシュ・フロー	△76,706	3,019
財務活動によるキャッシュ・フロー	△377,667	△1,282,171
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	35
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	247,080	△774,205
現金及び現金同等物の期首残高	1,006,741	1,789,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,253,822	1,015,203

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度末に比べ2億47百万円増加し、12億53百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は7億1百万円の獲得(前年同期は5億4百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は76百万円の使用(前年同期は3百万円の獲得)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は3億77百万円の使用(前年同期は12億82百万円の使用)となりました。

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日
建設事業	5,810,287	9,879,148
製品販売事業	1,384,605	1,416,452
情報システム事業	187,711	189,641
不動産賃貸事業	89,365	92,553
合計	7,471,970	11,577,795

▶▶ 会社概要 (平成26年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	8名(連結454名)

▶▶ 代表者及び役員 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長	藤田 公 康
取締役	長谷部 正 和
取締役	土屋 英 治
取締役	大田 光 英
取締役	多賀 邦 行
常勤監査役	天野 敏 彦
監査役	小田 清 和
監査役	佐 上 芳 春

▶▶ グループの概況 (平成26年9月30日現在)

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/PC及びコンクリート二次
製品の製造・販売等

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC製品及びコンクリート
二次製品の設計・製造・
販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム 株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計・開発
及び販売等



株式の状況 (平成26年9月30日現在)

発行可能株式総数…………… 30,000,000株

発行済株式の総数…………… 8,620,000株

株主数…………… 948名

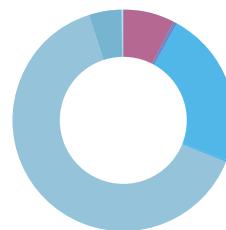
(注)当社は、平成26年10月1日付で株式分割に伴う定款の変更を行い、発行可能株式総数は、30,000,000株増加し、60,000,000株となっております。また、発行済株式の総数は、8,620,000株増加し、17,240,000株となっております。

大株主 (上位11名)

株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300 (千株)	15.83 (%)
藤田 公 康	713	8.69
ビーアールグループ社員持株会	393	4.79
極東工業広島支部取引先持株会	252	3.07
極東工業大阪支部取引先持株会	247	3.01
広成建設株式会社	247	3.01
長 谷 部 正 和	221	2.69
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.44
藤 田 衛 成	186	2.27
遠 藤 祐 子	185	2.25
藤 田 雄 山	185	2.25

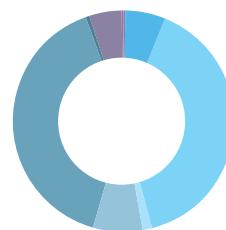
(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。
当社は、平成26年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
持株数については、株式分割前の株数を記載しております。

所有者別株式分布状況



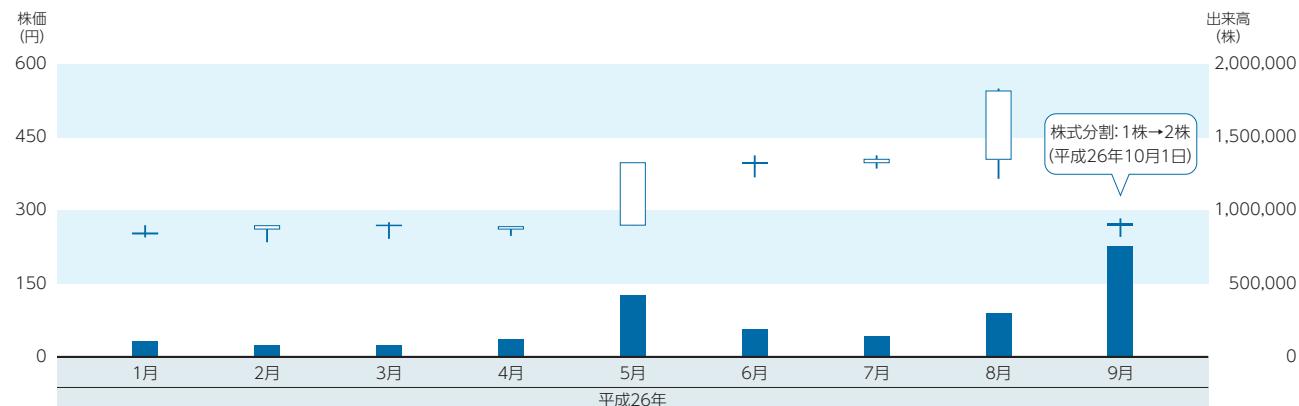
金融商品取引業者	43,393株	0.50%
その他の法人	1,971,050株	22.86%
外国法人等	17,000株	0.20%
個人・その他	5,519,283株	64.03%
自己名義株式	409,274株	4.75%
金融機関	660,000株	7.66%

地域別株式分布状況



北海道	29,400株	0.34%
東北	504,463株	5.85%
関東	3,434,283株	39.84%
中部	106,003株	1.23%
近畿	639,609株	7.42%
中国	3,445,137株	39.97%
四国	30,003株	0.35%
九州	414,102株	4.80%
外地	17,000株	0.20%

株価の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について



内田高架橋 〈極東興和株式会社〉

内田高架橋は、島根県浜田市で現在建設されている浜田・三隅道路の橋りょう工事です。国道9号の慢性的な渋滞解消や緊急時の代替路確保等を目的として整備されています。

本橋は、橋長248mの6径間連続箱桁橋で、固定支保工架設にて施工しました。山間部の複雑な地形と現地高压線を考慮した支保工計画を行うとともに、各種の技術提案による品質向上対策も確実に実施しました。また、地元住民を招いて開催された現場見学会は盛況で、その様子は多くのメディアによって取り上げられました。これらの取り組みにより、発注者から高い評価をいただきました。

浜田・三隅道路のうち、内田高架橋を含む8.1kmの区間が今年度末に開通します。



 **株式会社 ビーアールホールディングス**
Br. Holdings

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861
ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>
IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからご覧ください。

**UD
FONT**